

プロジェクトタイトル	大学院生によるシステムティックレビューの学際的アクティブラーニング
プロジェクト代表者	木田 世界、鈴木 和宏

1. プロジェクトの目的・概要

本学の大学院生を対象にシステムティックレビュー（SR）のアクティブラーニング（AL）を行う。SR は、明示された体系的な方法により学術文献を検索、収集、分析し現状の諸研究の成果や限界・課題を明確化することを表す。AL とは、受講者が発表や体験を行うなどの形で主体的に学習に臨むことを示す。目標は、①AL 参加者に対しては研究者として必須となる先行研究のレビュー方法を習得してもらうこと、②発表会参加者に対しては、レビューに関する知識および商学における学際的な知識を得る機会を提供することである。また、③大学院生を中心とした学際的な交流機会の提供も目標の一つである。

現代商学専攻では、研究に関する大学院生イベントが少なく学際的な交流機会がないのが現状である。研究レビューはどの研究領域でも必須であり、特に SR が増えてきている。また、レビューには研究領域を解説するという目的もあるため、学際的なイベントのテーマとして SR はふさわしいと考える。

2. 具体的な取組内容

2024 年 10 月上旬 現代商学専攻 修士一年の学生 3 名に対し、EBSCO BSE の使い方のショートレクチャー
 2024 年 10 月末 修士学生 3 名によるレビュー計画の発表と教員からのフィードバック
 2024 年 11 月 ワークショップ参加者募集
 2024 年 12 月 日本語と英語を併用し、修士学生・グローバルコース学部生計 7 名に対して SR, EBSCO BSE に関するレクチャ、文献検索の演習ワークショップ

3. プロジェクトの成果及び地域への還元

本プロジェクトのワークショップ後には、学生からシステムティックレビューやそのために必要な EBSCO についてある程度のイメージを持つことができたという声が聞けた。一方で、日本語と英語を併用しながら説明したこともあり、文献検索ワークショップは時間の関係上、駆け足の開催となってしまった感もある。参加者の検索作業を見てアドバイスする TA を配置してもよかったかもしれない。

本研究の成果は学生の知識と経験であり、修士を終了した院生は就職や進学し、地域や世界で活躍することが期待される。なお、英語でコミュニケーションを取ったアフリカからの留学生の院生 2 名は博士課程後期に進学した。より客観的な検証のため、ワークショップ後にアンケートを行い、6 名から回答を得た。「このワークショップを通して、体系的レビューの意味や方法の理解は深まりましたか？」という設問には、66%の受講者がとてもそう思う・そう思うと回答した。「総合的に見て、ワークショップに満足しましたか？」という設問にも 66%がとてもそう思う・そう思うと回答した。